
夜とロックンロール

千葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜とロックンロール

【Nコード】

N4222Q

【作者名】

千葉

【あらすじ】

迷惑行為はやめましょう

薄暗い中に、部屋を揺るがすような大音量でギターの音色が流れている。

最近買ったお気に入りのこのロックバンドのCDは、こうしてスピーカーで大音量で聴くのが一番気持ちがいい。

視線を壁へ流し、明かりの無い中眼を凝らして時計を読む。深夜一時。

ズキリ、と奥底の良心が少し軋んだ。

もうじき隣か、上か下か、とりあえずどこかしらの部屋から苦情が入ることだろう。

家賃の安いこのアパートは、隣人が少し大きな声で喋るだけで内容が筒抜けになるほど壁が薄いのだ。

日中はアルバイトに出かけている。

帰宅して、食事をして、入浴をして、スピーカーの前に座る頃にはもうこの時間になってしまう。

それに大抵、音楽に縋りたくなるのは夜が訪れてからと決まっている。

多分この騒音問題で揉めて、部屋を追い出されるのも時間の問題だろう。次はもっと壁の厚い部屋に越そう。

何しろ音量を下げるとか、ヘッドフォンを利用するとかいう選択肢は、初めから私の中にはないのだ。

シャウトじみた歌声を聴きながら、ステレオの前の床に寝そべり思

考に耽る。

この時間は私にとってかけがえのないものであるのだ。

とはいえ考えていることは大したことではない。

明日の午後は予定が入ってないがどうしようだとか、このバンドはやっぱりすごいなだとか、そんなたわいもないことだ。

昔はもっと意味のあることを考えていたような覚えがある。

しかし時間が経つにつれて、そういうことはもうどうでもよくなってきたしまった。

自分の将来のことも、愛したあの人のことも、もうどうだっていいのだ。

私はいつだって、夢みたいなことばかり考えていた。

実現しようもない、ある意味いまよりもっとたわいのないことばかり考えていたのだ。

「…喉渴いた。」

ぼそりと独り言を呟き、寝そべっていた床から起き上がる。のそのそと立ち上がり、部屋を出ると冷蔵庫へと向かった。

キッチンに置いた小さな冷蔵庫から、買い置きしてあった炭酸飲料を取り出す。

蓋を開けると、プシュツと炭酸の抜ける音がした。口をつけると、僅かな刺激が舌に加わる。

壁越しに、部屋で流している音楽が聴こえてくる。

思っていたよりも音量がでかい。

部屋に戻ったら少し小さくした方がいいかもしれない。

と、考えはしたのだが、炭酸を飲み下しているうちに部屋に戻るの
が面倒になってきた。

ペットボトルを握ったまま、リビングのソファに腰を下ろした。

カーテンを閉めた窓の向こうから、微かに道路の電灯の灯りが透け
て見える。

私は長い間、ここが世界の中心であると思っていた。

しかし実際、私が居るのは世界の端なのだ。

いや、それともぼんやりと日々を過ごすうちに端まで流れ着いてし
まったのだろうか。

ただ自分の本当の立ち位置を認知しただけなのか、心境の変化であ
るだけなのか。

壁越しのロックンロールが、次の曲へ移り変わった。

心境の変化、それは確かに大いにあるだろう。

そういえば、昔に比べたらあまり人間くさい歌を聴かなくなった。

もっと壮大な、その人にしか見えていない世界だとかを唄っている
ものに魅かれた。

きっと共感は無くなったんだろう。

口を揃えてお互いに縋ってるのに飽きたってことか。

もっと何か、それを創っている人にしか見えていないものを見たい
と思った。

誰かになりたいと思うのも、きっとそういう理由からなんだろう。

自分が見ていないものを見たい。

とか、そんなところか。

ドンドンドン

不意にノックの音。

ドアを拳で思い切り叩きつけるような音に思考は中断。

持っていた炭酸飲料のペットボトルを机に置いて立ち上がる。

あらかたご近所の誰かが苦情でも持ってきたんだろう。

丁度いいタイミングだ。

いくら考えても無駄だから、このくだらない思考を誰かに遮ってもらいたかったところ。

きっかけが無ければ止められないから、
毎夜私はロックンロールに酔いしれる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4222q/>

夜とロックンロール

2011年10月7日23時35分発行